

### 3. 団体活動発表概要

#### 1) NPO 法人 ゆい (神奈川県茅ヶ崎市)

「湘南海岸の紹介・活動の現状と課題・海浜植物の研究と知見の紹介」

発表者：荒井三七雄・雨木若慶

湘南海岸では、開発行為等による海浜自然環境の消失のほか、波による侵食も海浜植物群落消失の一因となっています。

「ゆい」では、海浜地の一部エリアを試験区として借りることで植生の再生を図っており、ハマボウフウ、ハマヒルガオなどの群生も見られるようになりました。

東京農業大学と共同で、海浜植物の増殖に関する研究にも取り組んでおり、ハマボウフウの発芽・生育に及ぼす海水浸透の影響、用土の影響、発芽時の温度の影響について試験を進めています。これまでの試験結果から、海水による発芽阻害はないこと、発芽には海砂より赤玉土が適していること、発芽適温は15℃前後であることなどがわかってきました。



2007年春



台風にもなう波による侵食で失われた海浜植物群落

2007年秋



植生回復した海浜植物試験区

2) 名取ハマボウフウの会(宮城県名取市)  
「名取ハマボウフウの会の活動」

発表者：今野義正

宮城県名取川河口に位置する<sup>ゆりあげ</sup>閑上海岸で、平成12年、3株のハマボウフウが発見されました。かつてあったようなハマボウフウが群生する砂浜の再生、よりよい地域づくりを目指し、ハマボウフウの保護育成を通じて自然豊かな海辺環境を回復し次世代へ伝えていくとともに、ハマボウフウを地域の特産品として育てる活動に取り組んでいます。



## 名取ハマボウフウの会の目的

1、絶滅危惧種第2類ハマボウフウの保護育成を通じ、閑上の自然豊かな海辺環境を回復し、次世代に伝えていく。→ 海浜植物が咲き競う「海岸のお花畑」づくり。

2、高級食材として、また感冒の薬用効果を持つハマボウフウの栽培技術の調査研究を行い、その成果を近隣農家にも普及させ地域特産化を図る。



### <活動内容>

- 1、名取市閑上海岸におけるハマボウフウの保護・育成
- 2、“みどりの里親”制度によるハマボウフウの増殖
- 3、行政に対する海浜植物保護区域設置のための運動
- 4、宮城県農業高等学校との連携によるハマボウフウの栽培
- 5、地域住民(市民・各学校・各種団体等)への広報と連携
- 6、地域環境保全活動にかかわる諸団体との協働
- 7、同じ目的を持つ全国各地の団体とのネットワークづくり
- 8、知識・技術習得のための学習会・研修会への参加
- 9、その他 必要とされる活動



09.2.28

3) 七ヶ浜ハマボウフウの会(宮城県七ヶ浜町)

「七ヶ浜ハマボウフウの会の活動」

発表者：紀野国正勝

宮城県七ヶ浜町(名取市から北へ km ほどの町)で、かつてあった海岸を飾っていたハマボウフウ再生と、地域の食文化としてのハマボウフウを再び楽しむことを目指し、海岸に栽培区を設けて増やすとともに、地域の自然や食文化を次世代へ伝える活動に取り組んでいます。

栽培区でのようすを、「ハマボウフウ単独では生育することはできず、必ず他の植物と隣り合って共存するような形で生育している。」と報告しました。



浜ボウフウの種蒔と除草



他種と隣りあって生育するハマボウフウ  
(そのような株だけが生き残る)



畑での浜ボウフウの生育(種蒔・除草)



七ヶ浜町立向洋中学校  
食育授業

#### 4) 鳥取大学農学研究科生態工学研究室(鳥取県)

##### 「鳥取県における海浜植生および海浜の現況」

発表者: 中田康隆

砂浜海岸(以下、海浜)は、農地開発、港湾・空港・道路整備などによって陸側から、またこれらの施設を海岸浸食から防護するための護岸・離岸堤の設置により海側から改変されることで縮小し、海浜を主な生育場所とする海浜植物は大きな影響を受けてきました。鳥取県には多くの海岸砂丘があるものの、鳥取砂丘以外の海浜の植生保全は十分とは言えません。そこで本研究では、鳥取砂丘以外の17海浜を対象に海浜植生の現況の評価を行ないました。調査方法としては、対象海浜において植物相調査を行い、種数、希少種の分布、海浜植物の割合などを調べ、さらに海浜植生の面積や幅などの定量的データと種数や希少種の有無などにより複合的に海浜植生の現況を評価しました。したがって、今回の発表ではこのような比較的簡易に取得できるデータを用いて海浜植生の現況を評価できる点と鳥取県の海浜植生の現況という点に主眼をおいて発表しました。

全国に生育する海浜植物80種のうち、鳥取県には32種が生育し、本調査ではうち27種の生育が確認された。全海浜植物は出現回数の違いより4グループに分類され、群群群群の順に希少性が増すので、群群群群の順で優先的に保全すべきと考えられた。次に、海浜植物相表の出現回数を降順に並べ、レッドデータブックととり植物編(鳥取県2002)に記載されている種と本調査において生育が確認された種を比較して絶滅危険性のカテゴリーの当てはめについて再検討を行った。その結果、出現回数が絶滅危惧類(以下、VU)に相当する種は1~4、準絶滅危惧(以下、NT)に相当する種は3~13となった。これを基に、出現回数が1~4(種群)の種はVU、5~13(種群と)の種はNT相当とすると、カテゴリー外からNTへ6種類、VUへ2種類、NTからVUへは1種類がランク変更の必要があると考えられた。また、鳥取砂丘と本研究の対象海浜との比較を試みた。鳥取砂丘の出現種数は17種で、鳥取砂丘を含めた全海浜の中で5番目に多かった。海浜植物の種数から鳥取県の海浜を評価するならば、鳥取砂丘と同等以上の海浜が7箇所存在することがわかった。また、ハマウツボなどの鳥取砂丘以外の海浜に生育する種を保全するためには、他の海浜も保全が必須である。

植生に関するデータと環境に関するデータのPCAの結果より17海浜は4グループに分類された。Aグループは、他のグループと比較して質・規模共に優れた植生を有しているが、北条西のような海浜幅が狭くなっている海浜は、幅を拡張するように修復すべきである。姉泊などの海岸浸食が進んでいる海浜は、将来的に植生が劣化する恐れがあるので、砂供給の安定化を図る必要がある。Bグループは、質は劣化しているが、規模は大きな植生である。そのため、移植などにより、海浜植物の種数を増やし、質を高める必要がある。Cグループは、質が劣化し、かつ規模が小さい植生である。ここでは、海浜幅を拡張して、成帯構造の修復を図った後、移植により種数の増加を図るべきだと考えられる。Dグループは、質は良好で、規模は小さい植生であった。そのため、Cグループと同様に海浜幅を拡張し、健全な成帯構造を目標として修復を図るべきだと考えられる。また、調査対象海浜のうち、7箇所(41%)しか保護区(県立自然公園)に指定されていない。今後は保護区の指定箇所を増やし、利用や開発に規制をかけながら、保全・修復を図っていくべきだと考えられる。

## 5) 銭函海岸の自然を守る会(北海道小樽市)

### 「風力発電事業から銭函砂丘を守る」

発表者：後藤言行

石狩湾新港西端から新川河口にいたる約5 kmに及び銭函4～5丁目は、汀線～砂浜～砂丘～後背湿地～後背林(カシワ天然林)がきれいな成帯構造をなしており、オフロード車の走行による損傷はあるものの、190万都市・札幌の至近距離にあって比較的プリミティブな自然草原、自然林が残された貴重な砂浜海岸です。

この地に20基の大型風力発電施設を建設する計画が進行中ですが、この計画に対して、生物多様性保全の観点から反対運動に取り組んでいます。

## 銭函海岸の自然を守る会の活動と風力発電事業に関わるできごと

2010.7.10

発表した要請文、論文、資料(含パワーポイント)等については、ご要望があればお送りします。

### 2009年

- 5.15 : 小樽市長・定例記者会見で風力発電計画を発表「社会的意義は大きい。早期実現を期待」
- 5.29 : 日本風力開発(株)、補助金申請(7.31に説明会、同日補助金が採択される。6億7千万円)
- 7.14 : 「銭函海岸の自然を守る会」結成(7.6に「風力発電問題を考える集いへのお誘い」発表)
- 8.29 : 「銭函海岸の自然をまるごと残そう」の訴えを発表(「銭函海岸の自然を守る会」第2回会議)
- 10.27 : 江差風力発電建設現場の視察(第2回:5名参加、小樽市で営業車をチャーター)
- 10.30 : 「自然の砂浜に残された生物多様性の保全 大規模な風力発電事業が狙う小樽市銭函海岸の場合」(2009年北海道科学シンポジウム報告)
- 12.1 : 「風力発電は本当にクリーンなエネルギーなのか」(日本科学者会議北海道支部第3水曜会)
- 12.13 : 「銭函海岸でアセスを受けるキセワタとは?(前篇)」(日本科学者会議北海道支部・科学談話室)
- 12.19 : 業者との話し合い 「『環境影響評価方法書・文献で抽出された重要な植物』の実態」(PP)

### 2010年

- 1.9 : 「銭函海岸でアセスを受けるキセワタとは?(後篇)」(日本科学者会議北海道支部・科学談話室)
- 2.6 : シンポジウム「銭函自然海岸の貴重さと保全の重要性」 於小樽 50名が参加  
「石狩湾の海浜地帯における昆虫たち」小林英男(北海道昆虫同好会・日本鞘翅学会)  
「銭函海岸の野鳥」梅木賢俊(日本野鳥の会)  
「銭函海岸は役に立たない荒地か?保全が求められる理由」松島肇(北大大学院農学研究院)
- 3.20 : 学習会「超低周波空気振動が生物体に及ぼす影響」 小樽市
- 3.23 : 環境大臣へ要請書「小樽市銭函地区の自然海岸を保全するための要望書」発送
- 3.31 : 経済産業大臣へ要請書「北海道小樽市・銭函地区の自然海岸を保全するための要望書」発送
- 4.6 : 要請行動:北海道経済産業局、環境省北海道地方事務所へ 参加15名(うち1名新聞記者、1名は途中退席) 記者会見:道政記者クラブ10名、札幌市政記者クラブ5名
- 4.30 : 風力発電問題を考える全国集会(東京)で銭函海岸・風力発電問題を報告
- 5.19 : 日本風力開発(株)塚脇正幸社長あて 「北海道小樽市銭函風力発電事業に係る要求書」発送
- 5.22 : 新エネルギー導入促進協議会・石谷久代表理事あて 「新エネルギー等導入加速化対策費補助金の交付に係る要求書」発送

6) きたねむろ山菜エコランド(北海道中標津町)

「ハマボウフウの特性を活用した生産、加工への取り組みについて」

発表者: 井芹靖彦

きたねむろ山菜エコランドにおけるハマボウフウ栽培は平成8年始まり平成9年早春より軟化茎の市場出荷開始し今日(平成22年3月)に至っております。

順調に生産量を伸ばしてきましたが、平成15年以降停滞ぎみに推移しております。

その要因は耕作者数が少数、意識の変化、慢心、機械導入の遅れ等、会の脆弱生によるものにつきます。

これらを払拭するため、冬季速成栽培一本やりから夏季路地栽培もの商品化、根ボウフウの商品化加工品の開発など取り組み、今年に入り前進がみられ始めています。

1. 従来の生産工程

野菜生産	根株の養成	冬季速成	パック詰	市場出荷
------	-------	------	------	------

2. 今後の生産工程

野菜生産	根株の養成	冬季速成	パック詰	市場出荷
------	-------	------	------	------

生薬原料	出荷後の根株	乾燥		
------	--------	----	--	--

お茶	促成に向かない小根株			
----	------------	--	--	--

野菜生産	夏季	路地もの	天ぷら、サラダ用	
------	----	------	----------	--

お茶	余剰茎葉	乾燥		
----	------	----	--	--

ハマボウフウの根は沢山の生薬に配合されております。ハマボウフウは古くより料理用食材として利用されております。また、近年では機能性成分も知られおり、このイメージを大切に生産した物は余すことなく商品化し魅力ある作物として育てていきたいと考えています。